



星と稲

伊米ヶ崎小学校 学校だより

<http://uonuma-school.com/school.com/ed03>

NO 1 2

発行日 令和2年2月21日

発行者 校長 名塚高明

【星と稲の訓】 朝に星と載せて出て 勢め励みで 我が伊米ヶ崎校及び伊米ヶ崎村の発展と期さん

学びに向かう力

今年も特設クロスカントリースキー部の講師として、クロスカントリーで国体での入賞経験もある梅田愛子先生から来ていただき、4年生以上の子どもたちが指導を受けました。そのキャリアから、厳しく選手育成中心の指導をされるかと思いきや、体を動かすことの楽しさを味わわせることを中心とした指導でした。梅田先生が行う課外活動はいつも子供たちの笑顔があふれていました。梅田先生に指導への思いを伺うと、



「せっかく才能があり、力があっても、続ける意欲がなければ大成しません。小学校で燃え尽きてきた子どもをこれまでたくさん見てきました。なので、小学校のうちはスキーの楽しさを味わってほしい、ここで嫌いになったら次のステージにもつながりませんから…。」

とお話しされていました。その深い思いにふれ、納得しました。

さて、来年度から新学習指導要領が全面実施されます。新学習指導要領では、学びに向かう力、学習意欲を大切にしています。子どもたちに学習内容の習得のみを求めても、学びに向かう力がなければ、学習で得た知識や技能を有効に活用することはできません。「スキー嫌いにしてはいけない。」という梅田先生の言葉に通じます。これからの学校教育での学習の方向は、知識の量を競ったり、ある決まった答えを求めたりする学習だけではなく、自ら問いを求め、新しい価値を創造する力を身に付けることにあります。子どもたちの自ら学ぼうとする意欲、態度が大切になってきます。学びの楽しさを味わわせることや学びの先に何があるのか、子どもたちにイメージさせることが、主体的な学習につながっていきます。そのために、学校は子どもの疑問、好奇心を発火点にした授業づくりを行い、指導方法を改善していかなければならないと考えています。また、子どもたちに自分の得意なこと、好きなことは何か等、自分自身を知ることや将来の夢をもつことの大切さ等、キャリア教育も合わせて進めていかなければならないと考えます。

昨年度のノーベル化学賞を受賞された吉野教授は、小学4年生の時担任から薦められた「ろうそくの不思議」という本から、化学に興味を持ったそうです。その後、科学についての興味は持ち続け、研究者の道を歩み、全世界で利用されているリチウム電池をつくり、大きく社会の発展に寄与しました。

子どもたちを取り巻く周りの大人が、個々の子どもの適性を見とり、適切に声をかけ、導いていくことの大切さを感じます。いよいよ、令和元年度も終わりに近づいてきました。来年度も保護者、地域の皆様の力添えをいただきながら、子どもたちが学びに向かう環境を整え、可能性の芽を育むよう取り組んでいきたいと思っております。

各種コンクール 入選者紹介

【新潟県書き初め大会】

一 毛筆 一

新潟県書道教育研究会賞 3年 坂大 愛莉
 準特選 3年 佐藤 いろは
 5年 小田島 悠太
 5年 渡辺 希恋

一 硬筆 一

特選 1年 さとう ことみ
 1年 さとう まりか
 準特選 3年 坂大 愛莉

【魚沼市小中学生書道展】

大賞 3年 坂大 愛莉
 奨励賞 5年 小田島 悠太
 6年 坂大 豪

【魚沼方言カルタ カルタとり大会】

低学年の部 優勝 チーム「ひみり」

2年 駒形 梨依奈、佐藤 ひなの、高村 深雪



仲間と一緒に！ ～2/7 大縄大会～

毎年恒例のなかよし班対抗の大縄大会が行われました。今年は小雪ため中止になった校内スキー大会の代わりに、保護者の皆様から子どもたちのがんばっている姿を見に来ていただきました。子どもたちは約3週間、割り当てられた休み時間を使って練習しました。最初は大なわの回るタイミングに合わせて縄の中に入れない低学年の子がたくさんいました。しかし、どのなかよし班も、上学年の子どもたちがコツを教えてあげたり、タイミングに合わせて背中を押してあげたりして練習を重ねてきました。本番では、みんなが練習の成果を発揮し、上手に跳んでいました。なかよし班のチームワークに拍手喝采でした。



満喫！スキー教室 ～2/17 4.5.6学年スキー教室～

小雪のため延期になっていたアルペンスキー教室を、須原スキー場を会場に、一日日程で行いました。数日前からの暖かさと前日からの雨で実施が心配されましたが、無事に実施することができました。子どもたちは限られたゲレンデの中、それぞれの技量に合わせてシュプールを描き、スキー技術を高めていました。



コンディションも悪く、シーズン初めてスキーをする子どもも多かったのですが、最大の心配はけがでしたが、一人もけがをすることもなく、1日スキーを楽しむことができました。帰りのバスの中は疲れのため、眠ってしまう子どももいました。お弁当作りやスキーの搬出入など、保護者の皆様から多くのご協力いただきました。ありがとうございました。

